

病院における遊び環境を考える

第18回公開オンラインセミナー

病児の遊びとおもちゃケア

子どもは遊びを通して成長していくと言われるように、健康な子どもだけでなく病気の子どもにとっても、健全な成長・発達のための「遊び」はとても大切です。

新型コロナウイルス感染症の影響で、制限のある生活を強いられている中でも、病児の遊び支援は歩みを止めてはいけなとと考えています。

本セミナーは2020年度よりオンラインでの開催を続けてきました。今回もオンライン開催で、病児の遊びについての講演を中心に、後半では実際に遊びの体験会を行ないます。

子どもたちが遊ぶことで少しでもその苦痛や緊張を忘れ、生活が楽しく豊かなものになるように一緒に考えてみませんか。

2023年
3月5日(日) 10:00 ~ 12:00

開催方法：オンライン開催(ZOOM)

参加費：500円



第1部 10:05~10:55

基調講演

子どもの発達の理解に役立つ考え方

講師：二瓶 健次

(医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 小児医療センター 小児科顧問
NPO法人芸術と遊び創造協会 理事、病児の遊び委員会)

第2部 10:55~11:25

講演

『病気の子どもの遊びに寄り添って』 おもちゃライブラリーが教えてくれたこと

講師：荻須 洋子

(認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワーク)

第3部 11:25~11:40

オンライン遊び体験

「詩の世界で遊ぼう」~こうさく遊びと手話と詩と~

朗読と遊びを手話サポート付きでお届けします。

身近な素材でこうさく遊びをしながら、手話も覚えられます。見ているだけでも大丈夫。皆さんと一緒に楽しい遊びの空間を体験しましょう。



病児の遊びとおもちケア

申込方法 ▶▶▶ 1月25日(水) 申込み受付開始!

申込受付:3月3(金)まで

PassMarketにて申込。先着300名まで。定員になり次第締切。

下記のURLまたは右のQRコードから、PassMarketの申込ページへ。

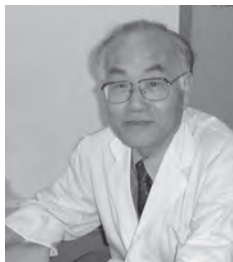
▶▶▶ <https://bit.ly/3H1Damm>



[右記WEBサイトからも申込ページへ]芸術と遊び創造協会 <https://art-play.or.jp/>

- お申込後の返金は致しません。代理の方が受講されることは可能です。ただし、お二人以上での参加の場合はお一人ずつ参加費をお支払いください。
- ZOOMのURLは3日前までにメールでご案内いたします。
- 当日は、開始5分前までに入室ください。(9時半より入室可能です。)
- 参加者の方の環境等が原因で発生したトラブル(ZOOMに入室できない、音が聞こえない、画面が見られないなど)につきましては、基本的に個別の対応や返金是对応致しかねます。ご了承ください。
- 今回のイベントは事業実施の記録のため、主催者側にて録画をさせていただきます。参加者の皆様は、個人情報保護のためZOOM画面の録画や画像の保存はなさいませんよう、ご協力の程よろしく願いたします。
- イベント開催後、参加申込者限定で当日の録画を公開いたします。当日に参加できなかった方は、そちらをご活用ください。(期間限定公開)

プロフィール



基調講演

二瓶 健次 にへい けんじ

(医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 小児医療センター 小児科顧問
NPO法人芸術と遊び創造協会 理事、病児の遊び委員会)

東北大学医学部卒業。東京大学小児科、自治医科大学小児科を経て、1979年から2001年まで国立小児病院神経科医長、2001年から2004年まで国立成育医療センター小児神経科医長、2009年から現職。小児神経学、発達神経学が専門。

講演概要

最近の脳研究の新しい考え方は子どもの脳の発達を考える上にも重要です。次の4つのポイントから、子どもの発達の理解に役立つ考え方をお話します。

1. **心の理論**: 日常生活で私たちは相手の心を読んだり相手の立場になって考えたりしながら人と関わりあっています。その心は人では3歳ころから芽生えるといわれています。
2. **ミラーニューロン**: 他者の行動を見ていると、その他者が活動している神経細胞と同様の神経細胞が活動します。
3. **ワーキングメモリー(作業記憶)**: 行動遂行に当たって、必要な情報の置換、変更、更新がなされます。そのために、一時的に情報(記憶)を貯蔵する必要があります。
4. **脳の可塑性**: 神経には可塑的な機能が備わっており、神経系が障害されてもその可塑性の発現によりその障害は補償され、適応します。



講演

荻須 洋子 おぎす ようこ

(認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワーク)

病気の子とも遊ぶボランティアを2000年から開始。これまでの活動先は都立清瀬小児病院、国立成育医療研究センターおもちゃライブラリー、順天堂大学小児科、杏林大学付属病院、日本赤十字社医療センター附属乳児院、その他在宅療養のお子さんへの遊びの訪問など。2002年よりブレイリーリーダー養成講座講師、認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワーク理事、東京都委託小児慢性特定疾病児童等自立支援事業自立支援員、おもちゃコンサルタント

講演概要

私と二瓶健次先生との出会い、そして唯一無二の場であった「おもちゃライブラリー」での活動についてお話します。病気のこどもが遊ぶということ、活動の中から生まれた遊びやおもちゃについてご紹介いたします。

芸術と遊び創造協会

<http://goodtoy.org/>

東京おもちゃ美術館

<https://art-play.or.jp/ttm/>

認定NPO法人

難病の子ども支援全国ネットワーク

<http://www.nanbyonet.or.jp/>
TEL:03-5840-5972

優良なおもちゃをコミュニケーションツールとして活用し、多世代での交流を推進。新宿四谷の旧校舎を活用した「東京おもちゃ美術館」の運営、おもちゃコンサルタントによる全国180カ所の子育てサロン「おもちゃの広場」、医療施設内やオンラインでの病児の遊びケア、難病児のためのおもちゃセット「あそびのむし」配布事業などの活動を行っています。

難病や慢性疾患、障害のある子どもとその家族を支えるために、親たち・地域の人たち・さまざまな職種を超えた人たちの3つのネットワークを生かした相談活動・交流活動・啓発活動・地域活動を行っています。病気の子とも遊ぶボランティア=ブレイリーリーダーの養成を行い、病院での活動を支援しています。

お問合せ 東京おもちゃ美術館
担当:遠藤
TEL:03-5367-9601

主催 特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

共催 認定NPO法人難病の子ども支援全国ネットワーク